

平成27年度第1回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：平成27年7月1日（水）午後1時15分～3時

場 所：豊田市中央図書館会議室

出席者：豊田市図書館協議会委員 10名

豊田市中央図書館職員（事務局） 9名

◇委嘱状交付

1 開会

2 教育行政部部長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議題

（1）平成26年度事業実績

（委員）

選書はどのようになっていますか。

（事務局）

資料収集方針、資料選択基準を定め、司書の職員を中心に、図書館にふさわしいものを購入しています。

（委員）

利用状況や蔵書数、購入の費用等について、他市と比べてどうですか。

（事務局）

旭川市の調査によれば、平成25年度の実績で、蔵書数は中核市で1位、貸出冊数は宇都宮市に次いで2位、資料購入費は6位となっています。

（委員）

選書は大変難しいため、従事する職員の専門性が確保されなければなりません。利用者のリクエストに応えることも大事ですが、リクエストのない良書を市民に提供することが課題であると思います。

（委員）

前年に比べ利用が減っていますが、これは継続的なものですか。

（事務局）

ここ数年、継続的に減少しています。貸出冊数では、中央館は平成20年度

の212万冊をピークに減少が続いています。他の中核市でも同じ状況です。ただし、入場者数では昨年度がピークでした。また、ホームページの利用は増えています。

(委員)

ホームページの利用が増えているということから、本への関心は強いように思いますが、これが貸出冊数に比例しないことについて、解決の糸口がありそうですが、どのような見解ですか。

(事務局)

特定の本への人気が非常に高く、1冊に対して100人、200人の予約が入る例があります。このため、市民の本への関心が即時に貸出冊数につながらない状況となっているのかなと思います。

(委員)

同じ本は1冊しか購入しないのですか。

(事務局)

人気のある本については、ネットワーク館を含めて副本が30冊程度あるものもあります。

(委員)

人気のほかに、購入の基準はありますか。あまり人気の本を購入すると、民業圧迫になるのではないですか。

(事務局)

図書館として伝えたい本もありますが、市民が興味を持つ本を揃えるということもあります。ただし図書館では、人気の本は貸出すまでに時間がかかるため、一日も早く読みたい場合は書店で買ってもらうという流れを作り、民業圧迫ではなく連携できるような流れを作りたいと考えています。

(2) 平成27年度運営方針

(委員)

子ども読書活動推進のところで読書ノートが挙がっていますが、これは豊田市の先進的な取組です。特に、ブックスタート世代の小学校入学に合わせてフォロー事業として行われたということが重要だと思います。

(事務局)

ブックスタートは今年7年目となり、ブックスタート1年目の子どもが今年小学校に上がる年になりました。子どもの読書活動に関しては、学校との連携が非常に重要だと考えています。数字に表れてこない子どもの読書に関する取組の情報を、学校や親から得て、今後の子ども読書活動推進に生かして

いきたいと考えています。

(委員)

「市民・企業・事業者との連携」とありますが、具体的にはどのようなことですか。

(事務局)

今年度は、具体的には、民間で行われるイベントに参加し、図書館を見てもらう、知ってもらふことなどを考えています。

(委員)

重点取組項目「(1) 中心市街地活性化への貢献」とありますが、現状はどうですか。また、どのように貢献するのですか。

(事務局)

図書館も中心市街地の一員であり、来ていただいた方にまちなかの情報を提供するという役割があると考えています。その手段として、デジタルサイネージの導入を検討しています。

また、当館は県民を対象としていますが、現在は駅からサインを見て図書館に行くのが分かりにくいといわれています。図書館が参合館内にあることが外からでも分かるよう、サインを建物の外壁などに取り付けるよう現在調整中です。

(3) 効果的、効率的運営体制の検討（図書館サービス向上計画）

(委員)

資料の3番の計画が具体化されたものが4番ということですか。

(事務局)

「3 計画の柱」は、この4つの点を中心に考えていくということで、計画書の中に具体的に「4 計画の内容」に掲げた5つの点を盛り込むという意味です。

(委員)

概算事業費の整理とありますが、これはどこで承認されるのですか。

(事務局)

最終的に事業費は、教育委員会議、次いで市議会での承認が必要となります。全体として市民に迷惑をかけずに今あるヒト・モノ・カネをうまく構築し直してやっていく方法を考えています。

(委員)

ICタグ導入について、簡単にメリット・デメリットや費用、かかる期間を教えてください。

(事務局)

現在は本にバーコードをつけていますが、I Cタグにすると本にI Cチップを貼ります。本を借りるとき、たとえば15冊借りる場合、現在は15冊分バーコードを一冊一冊読み取りますが、I Cチップが入ると、一瞬で15冊分読み取れます。急ぐ利用者は自ら手続きができ、時間短縮と借りやすきの向上が利点の一つです。また最大の利点は、貸出・返却のための大きなカウンターが不要となり、利用者と職員が近くなることだと考えています。I Cタグは1冊に100円程度かかりますが、費用対効果の面では、現在のシステムを10年続ける間に回収できる試算となっています。これにより職員が回遊できるようになったり、開館時間延長などの効果につながられるのではと考えています。

(委員)

I Cタグ準備のためには閉館しなければならないのですか。

(事務局)

窓口カウンターの再整備のために閉館する必要があると思いますが、上限でもひと月以内でと考えています。

(委員)

I Cタグのおかげで、人に対応する職員が増えるということであれば、コストがかかってもやるべきと思います。

今朝、日本一利用が多い岡山県立図書館について紹介するテレビ番組を見ました。岡山は数年前、学校に司書がいる唯一の県でした。学校司書の存在は、幼いころから図書館を利用する習慣につながります。図書館の利用が減っているということでしたが、学校図書館の利用が増えたからという可能性もあると思います。

レファレンスでも、読みたい本がすぐに出てくる、あるいは、司書が市民により良い情報を提供できるということが重要です。

(事務局)

確かに、学校図書館司書配置後は配置前より学校図書館の貸出が増えています。ただし、司書という専門職でも全ての専門ではないため、市民活動との連携が欠かせないと思っています。当館では述べ500名のボランティアが活動しています。市民活動の様々な知恵、得意分野も活かした運営をしたいと思っています。

5 閉会